

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
北海道メディカル・スポーツ専門学校		平成24年11月8日	塩野 寛		〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2-12-4 (電話) 0123-36-5500		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 産業技術学園		昭和63年1月5日	宮川 藤一郎		〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2-12-1 (電話) 0123-36-8119		
目的	より専門的な知識と技術、接遇を習得し、医療、スポーツ業界、福祉で社会貢献できる柔道整復師の養成						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
医療	医療専門課程		柔道整復師学科		平成6年文部科学大臣告示84号		-
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	113	81	14	18	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		168人		7人	22人	29人	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 単位認定試験(実技含む)・出席状況		
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月9日～8月30日 ■冬季: 12月23日～1月11日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	学生は教科課程表に従い進級・卒業認定に必要な科目の単位を修得する。単位の成績は100点法又はABCDの4段階法で優・良・可・不可を表示する。合格又は不合格は合格基準60点以上を合格とし、満たない場合は不合格とする。再試験の成績評価は合格・不合格とし、60点以上は合格のC評価(可)とする。不合格はD評価(不可)として単位の認定を行わない。進級・卒業の認定は、判定会議において学校長が行う。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別及び三者面談			課外活動	■課外活動の種類 柔道大会の参加・地域清掃(年1回) ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 整骨院 整形外科 福祉施設 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 59.3% ■その他 (平成26年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	柔道整復師(国家資格) 機能訓練指導員		
中途退学の現状	■中途退学者 8名 ■中退率 4.4% 平成26年4月1日 在学者 179名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 171名 (平成27年3月31日 卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学力不振によるモチベーションの低下 ■中退防止のための取組 一人ひとりに合わせたサポートを行う。進路アドバイザーも含め対応。学校全体として中途退学者ゼロを目指している。						
ホームページ	URL: http://www.hms.hht.ac.jp/						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

臨床現場で活躍する企業・業界との意見交換をすることで、企業・業界が今求めている人材像やスキルを確認し、その情報をもとに教育課程の改訂していくことを目的とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年8月31日 現在

名 前	所 属
南雲 三枝子	はりきゆう南雲治療院 院長
瀧田 利恵	札幌鍼灸柔整マッサージ師会 理事 学術局長
阪 英明	阪はりきゆう院 院長
高木 是	公益財団法人 千歳市体育協会 評議員
大高 千咲子	北海道全員健康株式会社 代表取締役
林 紀博	札幌柔道連盟 理事
上林 祐貴	こくしゆ塾 院長 (卒業生) 札幌エリアマネージャー

(開催日時)

平成27年 2月7日(実施) 10:00 ~ 11:30 北海道ハイテクノロジー専門学校 第2校舎 リトミック
平成27年 7月12日(実施) 17:00 ~ 19:00 北海道ハイテクノロジー専門学校 第1校舎 113教室
平成28年 2月7日(実施予定) 14:00 ~ 16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実際に治療現場で活躍している先生による講話や実技指導を通して
学生が自ら必要とされている項目に気づき、更なるモチベーション向上に努める。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
柔道整復実技Ⅱ	リハビリテーション技術の習得	社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

近年、重要視されている統合医療・代替医療に対し、より多くの専門知識を得ることで教育力向上をはかるとともに、臨床現場の知識・技術を学校教育の現場に活かし、指導力を向上させるために行うことを目的とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年8月31日 現在

名 前	所 属
日光 大輔	医療法人社団慶心会 ラ・デュース恵み野 卒業生
山田 美香	保護者 保護者
根占 克哉	北海道恵庭南高等学校 教諭
石川 俊則	トーエイ株式会社 代表取締役
林 紀博	札幌柔道連盟 理事
鉢 直人	一般社団法人 ノルディーア北海道 代表/理事長
福良 均	北海道鍼灸マッサージ師会 常任理事
南雲 三枝子	はりきゆう南雲治療院 院長 全日本鍼灸学会 北海道支部学術委員

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.hms.hht.ac.jp/sp/news/jouhoukouka.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.hms.hht.ac.jp/sp/news/jouhoukouka.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復師学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生物学	生物の基本原理や生態に対する正しい観察力を学ぶ	1 年前 期	32	2	○			○			○	
○			心理学	人間の行動・発達心理人格形成等の心理学の基本的な理論を学ぶ	1 年前 期	32	2	○			○			○	
○			社会福祉学	社会福祉と社会保障制度の理解・医療と社会福祉の関連について学ぶ	1 年前 期	32	2	○			○			○	
○			英語	医療英語および英会話の基礎を学ぶ	1 年前 期	32	2	○			○			○	
○			栄養学	健康維持のための食事と栄養の基礎を学ぶ	1 年前 期	32	2	○			○			○	
○			情報科学	Excel・Word・PowerPoint等のパソコンの基本・応用を学ぶ	1 年前 後 期	60	2		○		○			○	
○			応用生物学	生物学を基礎に人体の機能について学ぶ	3 年前 後 期	64	4	○			○			○	
○			保健体育	体育として柔道を通して、柔道の基本的な礼法や技法を習得する。	1 年前 後 期	60	2		○		○			○	
○			保健体育Ⅱ	体育として柔道を通して、柔道の基本的な礼法や技法を習得する。	2 年後 期	30	1		○		○			○	
○			総合演習	人間科学を中心とした柔道整復師に必要な総合知識を学ぶ	3 年前 期	30	1		○		○			○	

○		解剖学	柔道整復師に必要な人体の構造を中心に骨格・筋肉・靭帯等の解剖学的知識を学ぶ	1 年前後期	128	8	○			○						○
○		生理学	人体の機能を中心に基礎的な人体生理学を学ぶ	1 年前後期	128	8	○			○						○
○		解剖学Ⅱ	柔道整復師に必要な人体の構造を中心に骨格・筋肉・靭帯等の解剖学的知識を学ぶ	2 年後期	32	2	○			○						○
○		生理学Ⅱ	人体の機能を中心に基礎的な人体生理学を学ぶ	2 年後期	32	2	○			○						○
○		運動学	人間の運動に関わる身体の機能と構造について学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○						○
○		病理学	疾病の原因・各種の疾患を学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○						○
○		整形外科学	整形外科における疾患別各論、症例等を学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○						○
○		一般臨床医学	一般的な臨床医学として各種疾患について学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○				△		○
○		外科学	外科の基礎と総論的な事項の学習及び日常臨床の外科疾患を学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○						○
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基本的な知識・評価法・診断等について学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○						○
○		公衆衛生学	医療従事者として必要な健康や保健に関する概念を幅広く学ぶ	2 年前後期	48	3	○			○						○
○		柔道	柔道を通じて柔道整復の倫理を学ぶ	3 年前期	30	1				○	○				○	
○		関係法規	柔道整復師として必要な基本的な法規等を学ぶ	3 年前期	16	1	○			○						○

○		基礎柔道整復学	骨折や脱臼その他筋・腱・靭帯等の軟部組織損傷に対して基本的知識を総論的に学ぶ	1年前後期	144	9	○			○		○						
○		臨床柔道整復学Ⅰ	上肢を主体に各種損傷の原因・整復法等を各論として学ぶ	2年前後期	64	4	○			○		○						
○		臨床柔道整復学Ⅱ	下肢・体幹を主体に各種損傷の原因・整復法等を各論として学ぶ	2年前後期	64	4	○			○								○
○		臨床柔道整復学Ⅲ	上肢を主体に各種損傷の原因・整復法等を各論として学ぶ	3年前後期	64	4	○			○		○						
○		臨床柔道整復学Ⅳ	下肢・体幹を主体に各種損傷の原因・整復法等を各論として学ぶ	3年前後期	64	4	○			○								○
○		柔道整復実技Ⅰ	柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法等を上肢を主体に習得する	2年前後期	60	2				○	○							○
○		柔道整復実技Ⅱ	運動評価、バイタル測定その他、可動域訓練法、徒手整復法などを学ぶ	2年前後期	60	2				○	○							○
○		柔道整復実技Ⅲ	テーピングの基本的な巻き方を習得する	1年後期	30	1				○	○							○
○		柔道整復実技Ⅳ	臨床的な各種手技療法とテーピングの巻き方を習得	2年前期	45	1				○	○							○
○		柔道整復実技Ⅴ	骨折・脱臼・軟部組織損傷に対しての整復法・固定法・検査法を学ぶ	3年前後期	120	4				○	○							○
○		柔道整復演習	専門基礎分野と関連させた柔道整復学を学ぶ	3年前後期	120	4				○		○						○
○		柔道整復実技A	包帯の基本的な身体各部位への巻き方を習得する	1年後期	45	1				○	○							○
○		柔道整復実技B	体表解剖を主体に六大関節の構造・機能について学ぶ	1年後期	45	1				○		○						○
○		柔道整復実技B-2	柔道整復学の理論を主体に骨折・脱臼・軟部組織の損傷について学ぶ	2年前後期	90	2				○		○						○

○		柔道整復実技 B-3	柔道整復師にとって必要な技術・知識を総合的に修得する（学内総合実習を含む）	3 年 前 後 期	270	6			○	○		○		
○		柔道整復実技 C	柔道整復師にとって必要な専門的知識・技術等を総合的に修得する	3 年 後 期	30	1			○		○		○	
合計					39科目		2421単位時間(113 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件は各学年で定められた全ての開講科目を履修することとし、履修方法については試験（筆記および実技）により成績評価を行い、その評価に基づき履修の認定を進級判定会議・卒業認定会議で学校長が認定する。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週